

基調講演

「次世代の持続可能な社会のために～なぜ国際協力が必要なのか？」～要旨

日本だけではなく、世界中が大変化の時代の中にあって、揺らいでいます。地域社会の将来を考える時どこの視点をおいて考えればいいのかという共通の方向性を見いだすための初めてのフォーラムです。

NPOアジア植林友好協会の活動の一環の「バリの植林祭」への協力を鹿児島大学大学院の小原幸三先生に参加頂いたご縁でこのフォーラムに参加させていただきました。

日本も世界的にも先行き不透明な現代社会のなかで、そもそも次世代を担う子供たちのために、いま私たちは何を成すべきか？

私たちはどのような地球と、どのような価値観を子供たちに残したいのか？ということと繋がります。

私たち人類は、健康で文化的な生活ができ、世界が平和な社会を求めて生きています。

- その根本の条件は、
- ①新鮮な空気を吸える環境、
 - ②清らかでおいしく感じる水
 - ③汚染されていない健全な食料
 - ④地球環境を汚染し続けないエネルギー

この基礎的な空気と水と食料とエネルギーが安定的に持続して得られる社会づくりには、地球規模の植林が不可欠です。

だれでも何も意識しないで呼吸をしています、いったん空気の供給が止まってしまうと7～8分で、みんな死んでしまいます。

からだの60～70%を占めている水が3日なければ、これも生命維持にかかわります。

食料は30日なくてもいいそうですが、それでも元気に生き、活動するためには、安定的に、持続的に供給される必要があります。

人間が人間の行動能力を超えたり、生活環境をよりよくするためにエネルギーも不可欠です。

人類が平和で健康的な生活を続けるためには、他にも色々な必要なものはありますが、ここにあげた4つの必要不可欠なものが、わたしたち現代の人間活動により、汚染され、減少し、次世代の明るい展望が見えないような状況になっています。

わたしたち人間の日常の活動により排出された廃熱や廃棄物を処理してくれる自然の復元力も損なわれています。

この現実をしっかりと認識し、地球規模での植林による森林の再生をしないことには、持続可能な社会は実現できないことは、過去の人類文明の歴史からも明らかです。

いま私たちに必要なことは、人類共通の課題としてとらえて、国や地域の違いを超えて地球規模で協力、連帯しない限り解決できない問題であるという認識です。

そのことを世界のより多くの皆さんに伝えて、具体的な行動をするために「地球に感謝の植林」、「世界平和の森づくり」を2007年よりバリ島で行っています。

この活動への参加を通じて、地球環境を修復するための活動が地球規模で広がることを願って、「バリ島植林祭」という取り組みを進めています。

年々よりたくさんの人たちが、様々な国の人たちが集まってくださっています。この活動の輪の波紋が広がり、地球規模の運動になればと願っています。

アメリカ大陸に侵入してきたヨーロッパの人々との戦いに負け、インディアンが割譲をするときに最後のインディアンの大酋長シアトルがいったメッセージのなかに、素晴らしい一節がありますので、御紹介させていただきます。

「ワシントンの大酋長が
土地を買いたいといってきた

どうしたら 空が買えるというのだろう？
そして 大地を。

わたしには わからない。
風の匂いや 水のきらめきを

あなたはいったい
どうやって買おうというのらろ？」

人類が地球上で生きてゆくために必要不可欠な「自然の恵み」は地球規模の境目のないものです。

今日の課題は、地球規模に拡大した人類活動により起こっている問題に、個人や地域や国家が「地球住民として発想ができない」ところに問題を解決できない原因があります。

いまこそ、地球規模で考えて、自分の生活基盤で行動し、
いまを生きて、未来につなぐのは、あなたの役目です。

若い人は自分たちの未来のために、年配者は次世代の子供たちのために、地球に感謝の植
林に参加していただくことを願っています。